

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.41, No.3



学内ワークスタディが活躍

本館では、資料の配架作業、データ登録のサポート、文献複写業務などに、学内ワークスタディ（学部生）が携わっています。

館内で行われる展示や、企画展でも活躍しており、震災ライブラリー展示「震災と生き物たち」（写真）はグローバル資料室前で、企画展「漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～」は、11月11日（金）まで多目的室にて、開催中です。ぜひご覧ください。



秋号

Contents

表紙

- 学内ワークスタディが活躍

SPECIAL

- 青葉山新キャンパスに新図書館 2

EVENTS

- オープンキャンパス 2016 4

LEARNING

- 電子ブックのススメ(9) 5
自宅から電子ブックを読もう！

SERIES

- 「ゆかりの人々」 6
情報科学研究科 教授 森 一郎
- <つながり>の一冊 6
『ソラリス』
法学研究科 博士後期課程3年 鈴木 悠

Information

- 附属図書館企画展 7
「漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～」を開催
- 学生選書企画『本屋へGo! 2016』 8
～「ひとりでじっくりタイプ？」それとも
「仲間とわいわいタイプ？」～を実施します！
- 「東北大学図書館の、ここがスゴイ！」展示報告 8



SPECIAL

青葉山新キャンパスに新図書館

平成28年6月30日、青葉山新キャンパスに図書館が竣工しました。

図書館は、農学部講義室や食堂・ショップが入る複合施設に設置されます。建物の名称は「青葉山 commons」で、青葉山のシンボルでありキャンパスの複合施設であることから、この名称がつけられました。

青葉山 commons は、仙台市地下鉄の青葉山駅から、新キャンパスのメイン動線となるキャンパスモールを200mほど西に進んだところにあり、北側はキャンパスモールに南側はユニバーシティパークに面した、地上2階建ての建物です。

図書館のオープン、平成29年4月を予定しています。

青葉山 commons 概要

青葉山 commons のフロア構成は、1階が食堂・ショップとアクティブラーニングスペースで、2階が図書館の閲覧室と農学部講義室になります。

授業や自主学習、食事にと、皆さんに長時間滞在し活用していただける施設になります。

2階

- ・図書館閲覧室（約21万冊、約160席）

1階

- ・アクティブラーニングスペース（約160席）
- ・共用書庫（約50万冊）



▶ キャンパスモールから見た青葉山 commons

2階

- ・農学部の10講義室
- ・大講義室（300席）

1階

- ・食堂（約150席）
- ・ショップ



ユニバーシティパーク側から見た青葉山 commons

青葉山新キャンパス地図



新図書館の特色 ① 閲覧室

現農学分館の機能全体を、新図書館（1階ラウンジ・2階閲覧室）に移設します。また、2階閲覧室上のロフトには、カウンター席を60席設けます。



② 2階・上2階ロフト

図書館閲覧室（約21万冊、約160席）

- 2階には広々としたソロワークデスクも設置
- 上2階ロフトには眺めのよいカウンター席

新図書館の特色 ② アクティブラーニングスペース

1階には、広いワークスペースをもつ学習席を配置し、食堂に隣接するエリアには、カフェテリアのようなスペースも用意します。



③ 1階

アクティブラーニングスペース（約160席）

- 学習できる“カフェテリア”
- 気楽なミーティングスペース

新図書館の特色 ③ 共用書庫

東北大学全体で共用する書庫を設置します。約50万冊収容できる書庫に、本館・分館の書籍を集約することで、図書館全体の収容力アップを図るとともに、各キャンパスに、新たな学習スペースを設置するなどの機能向上を図ることも可能になります。



④ 1階

共用書庫（約50万冊）

- 全面的に電動集密書架を導入

EVENTS

オープンキャンパス 2016

平成28年度のオープンキャンパスは、7月27日(水) 28日(木)に行われ、全国各地から高校生が本学を訪問し、キャンパスライフを疑似体験しました。附属図書館では、本館、4分館それぞれがキャンパスの特色に合わせたイベントを企画し、全国でも有数規模のオープンキャンパスを盛り上げました。



本館

本館では、期間中約7,600名の入館がありました。図書館オリエンテーリング、グローバルセッション企画「留学生と話してみよう」を実施し、また、図書館サークル「SaL」の展示企画「東北大学図書館の、ここがスゴイ!」の資料も併せて展示されました。訪れた高校生はスタンプラリーに参加し館内各フロアを見学したり、留学生の話に熱心に耳を傾け、コンシェルジュと記念撮影を楽しんだり、「SaL」から図書館のスゴイ話を聞いたり、大盛況でした。また、昼食時には、館内カフェのオープンキャンパス限定メニューに行列をつくり、多機能な図書館を満喫していました。



▶留学生コンシェルジュの説明



▶図書館オリエンテーリング

医学分館

医学分館では、「解体新書から始まる医学教育の歩み—驚きと感動の医学史—」と題した名著・重要資料によって医学教育の確立過程を紹介する展示と、医学部でよく使われる教科書の展示を行いました。1,500名以上の見学者が来館し、乳癌手術の症例集や講義ノートなどの展示物を熱心に眺めたり、教科書の内容を確認するなどの光景が見られました。



▶見学者で賑わう館内

北青葉山分館

北青葉山分館では、アインシュタインが一般相対性理論を発表してから100年になることにちなみ、「アインシュタインと東北大学—一般相対性理論から100年—」と題した展示を行いました。パネルで一般相対性理論や東北大学訪問時の様子等を紹介し、発表論文や関連図書、動画を展示しました。また、雑誌「Nature」の配架場所を探してもらい、当たった方にはささやかなプレゼント(しおり等)を差し上げました。2日間で約600名が来館し、展示や館内の豊富な資料を興味深く見学する高校生の姿が多く見られました。



▶展示を見学する高校生達

工学分館

工学分館では、エントランスホールで「工学部生の生活」「東北大学工学部出身の著名人」という2つのミニ展示を行いました。また、所蔵資料をご覧いただくために、図書フロアへスムーズにたどり着けるよう誘導ラインを設置し、2日間で1,100名を超える来館者がありました。



▶エントランスの様子

農学分館

農学分館では「雨宮キャンパス 今・昔・そして未来」をテーマとしたミニ展示を行いました。今年度中に青葉山新キャンパスへの移転を予定している農学分館には二日間で約700名の来館者があり、現地では最後のオープンキャンパスとなることからこれまでの歴史を振り返る写真や新図書館のイメージ図などを熱心に見学していました。



▶雨宮や新キャンパスの様子をパネル展示

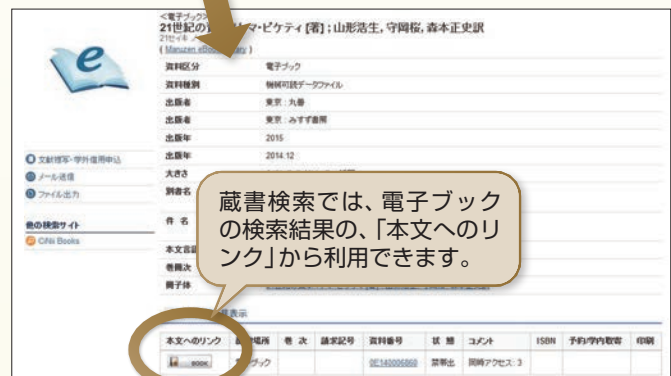
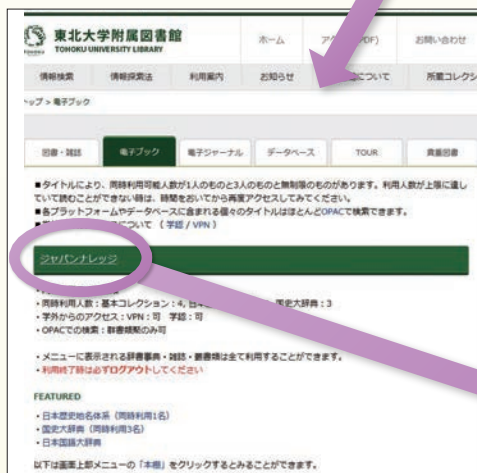


電子ブックのススメ(9) 自宅から電子ブックを読もう！

電子ブックや電子ジャーナルを使いたいけど、学内のパソコンからしか使えないし…？ そのような声にお応えして、「学認」を導入しました。

「学認 (Gakunin)」は「学術認証」の略で、東北大IDとパスワードを入力することで利用者の認証を行う仕組みです。この仕組みにより東北大学の学生・教職員は自宅や通学途中でも学内限定の電子ブック・電子ジャーナルを利用できます。

図書館ホームページの「電子ブック」のページで、出版社や提供プラットフォームを選択します。



蔵書検索では、電子ブックの検索結果の、「本文へのリンク」から利用できます。

各ページで東北大ID/PWを入力してください。
認証ページに遷移するまでの手順が異なるため、それぞれの詳しい手順は図書館ホームページから以下を参照してください。

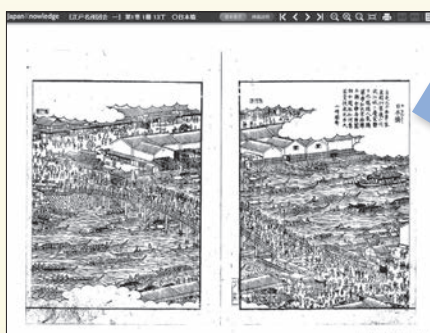
◆学外からのアクセスについて

[<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/ejournal/remote.html>]



東北大ID

パスワード



● 教職員は、情報シナジー機構のリモートアクセスサービス (VPN サービス) でも学外からの利用が可能です。

SERIES

「ゆかりの人々」 情報科学研究科 教授 森 一郎

シリーズ「ゆかりの人々」は、「東北大学ゆかりコレクション」にちなみ、本学の教職員、卒業生など、東北大学にゆかりのある方々の著書について、ご本人に様々なエピソードを含めて、ご紹介いただくコーナーです。シリーズ17回目は、本学情報科学研究科森 一郎教授です。



文理融合の理念を掲げて1993年に創設された情報科学研究科では、論理学、言語学、心理学、社会学、政治学、メディア学など、人文系の研究・教育も盛んに行なわれています。なかでも、万学の基礎としての哲学が中軸に据えられているのは、東北大学の確固たる伝統に根ざしています。多様化した知の時代だからこそ、物事の根本を捉える原理的思考が求められるのです。



「活動的生」

ハンナ・アーレント著、森一郎訳、みすず書房 (2015年)
本館2F学閲 H45/0294

20世紀を代表する哲学者の名著の新訳。英語版『人間の条件』(邦訳ちくま学芸文庫)とはまた別の味わいをもつドイツ語版の重厚なテキストを、読みやすい日本語に定着させた功績により、第52回日本翻訳文化賞を受賞。500頁を超える大冊のどの頁にも、哲学的思考の宏大さと奥深さが横溢してい

ます。内容はずばり、「活動しているときわれわれはいったい何をしているか、をじっくり考えること」。



「死を超えるもの」

3・11以後の哲学の可能性

森一郎著、東京大学出版会 (2013年)
本館2F学閲 H21/0344

2011年3月の東日本大震災は、その「余波」ともども、われわれを震撼させ続けています。哲学は「驚嘆」から始まる、と古代の哲学者は述べましたが、われわれは、現代世界の危機を前にして襲われる「戦慄」から、哲学を再開しうるのは。今や、東北の地から世界に向けて「3・11以後の哲学」を発信すべきときなのです。



「死と誕生」

ハイデガー・九鬼周造・アーレント

森一郎著、東京大学出版会 (2008年)
本館2F学閲 H45/0234

現代哲学史に屹立するハイデガーとアーレントの師弟対決。その現場を言い表わす一対の語が、「死と誕生」です。終わりと始まりという一対のテーマを仲立ちする偶然性の問題に取り組んだ近代日本の哲学者、九鬼周造をも引き入れ、現代における哲学の可能性を追究した本書は、第21回和辻哲郎文化賞(学術部門)を受賞。

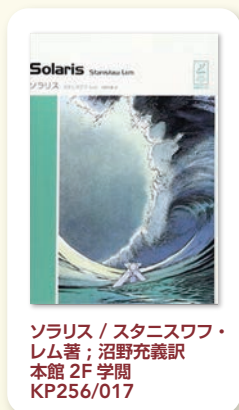
SERIES

〈つながり〉の一冊 「ソラリス」

「言葉、時代、文化を越える翻訳小説の醍醐味」

法学研究科 博士後期課程3年 鈴木 悠

シリーズ〈つながり〉の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく〈リレーエッセイ〉です。



ソラリス / スタニスワフ・レム著；沼野充義訳
本館2F学閲
KP256/017

遠い国の人の言葉で、その想像力や価値観によって描かれる作品は、予想がつかない発想や展開があり、文化や時代背景の違いを乗り越えるような読書体験ができるような気がします。自分の語学力に限界があって、原語で読めないことを残念に思うこともしばしばですが、翻訳されたものを読み比べてみると興味深い発見もあります。

今回紹介する『ソラリス』もそのような作品の一つです。本作品が初めて日本語に訳されたときにはロシア語版が用いられたのですが、2004年に発行された本書は、原典であるポーランド語から翻訳され、ソ連時代に行われた検閲を恐れてロシア語版からは削除された部分が新たに追加されています。

本作品では、人類にとっての「未知なるもの」である、惑星ソラリスの表面を覆う海が登場します。この海は、どうやら一つの生命体で、意識を持ち、重力をもコントロールしているようなのですが、長年研究を行っても、人類はこの海とコミュニケーションをとることができません。現地では少人数の研究者が細々と研究を続けており、この「未知なるもの」を理解するために、研究者も、そしてソラリスの海の側も互いに試行錯誤、悪戦苦闘、七転八倒した様子が、研究成果として著されています。

旧訳と新訳とを読み比べると、前者では本作品のテーマに関わる重要な部分が削除されていて、その有無によって作品のトーンが相当異なっているという印象を抱きました。それぞれ一つの翻訳小説として単独で楽しむこともできる作品ですが、当時の社会情勢や作者の思想も含め、合わせて読むと一層深みのある楽しみ方ができると思いますので、お勧めです。

Information

附属図書館企画展『漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～』を開催

附属図書館本館では、明治の文豪夏目漱石の旧蔵書三千余冊や日記、書簡、原稿・草稿等の自筆資料からなる漱石文庫を所蔵しています。

これらは昭和19年に当時の館長であった小宮豊隆教授の尽力により東北帝国大学に受け入れられました。東京の早稲田南町にあった漱石の蔵書が、なぜ、東北の地に来たのでしょうか？当時の東北帝国大学には漱石の高弟、小宮豊隆と阿部次郎が在任していたこと、特殊文庫という蔵書の管理方法（個人が収集した貴重な蔵書は一般図書とは分け、一括管理）が夏目家の意向に沿うものだったことが挙げられます。

また、漱石が敬愛する恩師、ラファエル・フォン・ケーベルの「ケーベル文庫」や漱石の親友、狩野亨吉の「狩野文庫」があり、「漱石文庫」は奇縁に導かれるように、来るべくして来た、ともいえます。

漱石の蔵書については、当初、東京帝国大学に寄付するという話もありましたが、同大では、漱石の蔵書を分野ごとに分け、他の一般図書と一緒に配架する方針であったためより夏目家の希望が叶う本学での受け入れとなりました。

今年は、漱石没後100年にあたります。これを記念し、10月3日(月)から11月11日(金)まで本館1階多目的室で、平成28年度東北大学附属図書館企画展『漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～』の開催となりました。



▶ 漱石文庫



▶ 寺田寅彦筆漱石あて葉書
(1908年9月12日消印)

今回は漱石文庫や周辺資料から、ヘその緒(ひな子)、狩野亨吉による弔辞下書き、漱石画幅(月と芒)、漱石が装丁やデザインの参考にした図案集、遺作「明暗」に関するメモ(日記)等々、様々な漱石関連資料を一挙に公開することになりました。当館に現存する唯一の資料ばかりです。

この展示会に先駆けて、去る9月1日(木)から9月14日(水)にかけて、市内中心部の青葉通地下道ギャラリーにおいては、企画展『漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～』のPR展を行いました。展示ケースの前で足を止める人も多くあり、拡大された資料のパネルは行き交う人々の目を楽しませていました。会期中の9月10日(土)・11日(日)には、定禅寺ストリートジャズ フェスティバル in 仙台も開催され、多くの市民の皆様の目に触れたようです。この企画には、日本近代文学館、神奈川近代文学館、仙台文学館からのパネル出展がありました。



▶ 京華図案 後編

日本近代文学館で11月26日まで開催の「漱石一絵はがきの小宇宙」展には、漱石が妻鏡子に宛てた絵葉書3葉の他、寺田寅彦ら知己から漱石に宛てた絵葉書数葉を出陳するなど、日本各地で開催されている「漱石展」への本館「漱石文庫」の出展も増加傾向となっています。

漱石生誕150周年にあたる平成29年には、11月3日(金)から11月14日(火)まで、せんだいメディアテークにおいて仙台文学館共催で漱石と周辺の人々をテーマにした展示会を開催予定で、市民の皆様楽しんでいただけるよう企画中です。ご期待いただければ幸いです。



▶ 青葉通地下道ギャラリー企画展展示

Information

学生選書企画『本屋へGo! 2016』

～『ひとりでじっくりタイプ?』それとも『仲間とわいわいタイプ?』～を実施します!

図書館にはたくさんの本が並んでいますが、図書館に置く本を自分でも選べたら楽しいと思いませんか?

『本屋へGo!』は、学生のみなさんに、図書館に置く本を直接選んでもらう企画です。

毎年好評のこの企画、昨年度は選んでいただいた427冊が図書館に置かれることになりました。書店の店頭で直接本を選ぶワクワク感は格別です。また、選んでもらった本は、図書館の「学生選書」のコーナーに展示されますので、多くの人の目に留まります。

お一人でもグループでも参加できますが、事前の申込が必要です。みなさんの申込をお待ちしています!

実施期間 10月下旬～11月下旬

参加条件 **個人**：学部学生・大学院生

グループ：川内キャンパスに所在する研究室またはゼミ
東北大学学友会所属団体及び準加盟団体

応募方法 ①②のどちらかで申込

① 館内にある参加申込書に必要事項を記入し、メインカウンターへ持参

② 必要事項を書いて、附属図書館受入係
acq@grp.tohoku.ac.jp にメールで申込

なお、定員になり次第、申込を締め切ります。

選書方法 図書館が指定する書店またはWebサイトで選びます

個人参加の場合：1人5万円分まで

グループ参加：1グループあたり10万円まで

その他 参加者には図書館オリジナルグッズ進呈

詳細は、館内のポスター・チラシ・図書館のホームページをご覧ください。

また、参加者には、後日個別に詳細をご連絡します。



▶ 学生選書書架



▶ 平成27年度選定図書

「東北大学図書館の、ここがスゴイ!」展示報告 (東北大学図書館研究会SaL)

東北大学オープンキャンパスの前後約一か月間、我々東北大学図書館研究会SaLが作成した「東北大学図書館の、ここがスゴイ!」の展示を行いました。東北大学図書館研究会SaL¹とは、今年2月に発足した学生主体の図書館サークルで、「学生がより積極的に図書館に関わり、主体的に参加するように促す」ことを目的とし、活動しています。

そして我々は、東北大学附属図書館と共催で、主に高校生を対象に、東北大学附属図書館の「スゴイところ」を、学生目線でお伝えする展示を作成しました。その内容は、東北大学附属図書館の歴史や概要などの基本的な情報のほか、職員の方々に実際に取材して、図書館員の方々の普段の業務や各々の係の「スゴイところ」を調べ発表しました。また、我々が日頃図書館を利用して気付いた「スゴイところ」についても紹介しました。例えば、東北大学附属図書館は日光がよく入るということ、設計した鬼頭梓氏²が掲げたコンセプトに触れつつ説明したり、団扇の貸し出しサービスやフレキシブルワークエリアなど、図書館内の学習環境の快適さもアピールしたりしました。

今回の展示は、図書館の紹介を学生である我々が行ったため、高校生や同じ学生の方々にも親しみやすい展示が作れたのではないかなと思っています。そして、今後のSaLは、東北大学の学生がもっと図書館を利用し、図書館を主体的に活性化していく「きっかけ」となる企画を実施していきたいと思います。図書館に興味を持つ皆さん、そしてまだ図書館にそこまで興味が無い方も、活動への参加をお待ちしています!

1 SaLとは、Students activate Library の略。「学生が図書館を活性化する」という目的を英語で略し団体名とした。

2 鬼頭 梓 (1926 ~ 2008) は現代図書館建築の第一人者である。1969年11月から川内の東北大学附属図書館新館の設計を始め、1972年10月に現在の川内の本館が完成。図書館新築のコンセプトは、「レファレンスの中央配置」と「日光の差す図書館」。当時、日光の差す図書館は斬新であった。



▶ 図書館研究会SaLスタッフの説明



▶ 「東北大学図書館の、ここがスゴイ!」



Tohoku Univ. Library
@hagi_no_suke

東北大学附属図書館のツイッター公式アカウントです。東北大学生の学習とキャンパスライフのためにつぶやきます。
http://twilog.org/hagi_no_suke
Sendai, Miyagi, JAPAN